鍵

茨木　のり子

一つの鍵が　手に入ると
たちまち①扉はひらかれる
硬く閉された内部の隅々まで
明暗くっきりと見渡せて

人の性格も
謎めいた行動も
物と物との関係も
複雑にからまりあった事件も
なぜ　なにゆえ　かく在ったか
どうなろうとしていたか
どうなろうとしているか
あっけないほど　すとん　②と胸に落ちる

ちっぽけだが
それなくしてはひらかない黄金の鍵
人がそれを見つけ出し
きれいに解明してみせてくれたとき
ああ　と呻く
③私も行ったのだその鍵のありかの近くまで
もっと落ちついて　ゆっくり佇んでいたら
探し出せたにちがいない

鍵にすれば
出会いを求めて
身をよじっていたのかも知れないのに

木の枝に無造作にぶらさがり
土の奥深くで燐光を発し
虫くいの文献　聞き流した語尾に内包され
海の底で腐蝕せず
渡り鳥の指標になってきらめき
束になって空中を　ちゃりりんと飛んでいたり

生きいそぎ　死にいそぐひとびとの群れ
見る人が見たら
この世はまだ
あまたの鍵のひびきあい
ふかぶかとした息づきで
燦然と輝いてみえるだろう

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 「鍵」の詩の種類として適当なものを二つ選びなさい。

ア 文語詩　イ 口語詩
ウ 定型詩　エ 自由詩　オ 散文詩

〔　　・　　〕

(2) ――線①「扉はひらかれる」とあるが、これはどういうことを表しているか。適当なものを選びなさい。

ア 謎や秘密が解き明かされること。
イ 束縛(そくばく)から解き放たれること。
ウ 見知らぬ人と打ち解けること。

〔　　〕

(3) ――線②「胸に落ちる」の意味を選びなさい。

ア 感動する　イ 想像する
ウ 納得(なっとく)する　エ 反省する

〔　　〕

(4) ――線③「私も行ったのだその鍵のありかの近くまで」に用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 直喩(ちょくゆ)　イ 体言止め　ウ 倒置(とうち)　エ 対句(ついく)

〔　　〕

(5) 詩の内容に合うものを選びなさい。

ア 鍵を探し出すには、その問いに急いで取り組む必要がある。
イ 人目につかないところに鍵はあり、決して手に入らない。
ウ この世の中は、謎や秘密とそれを解明する鍵で満ちている。

〔　　〕